

シオンの子

第 34 号

2015.5.5



小学3年 女兒 版画

将来の夢

高校三年男児

「将来の夢は」と聞かれて、「とりあえず大学に行つて。」と高校二年生までの私はそう考えていた。

私は、幼稚園の時に子持山学園に来た。小学校、中学校とそれなりに期待に込め過ぎてきた。運動会、マラソン大会、勉強に部活と、常に上位の結果を残した。高校受験でも地元進学校に進学するのが当たり前と考へて進学した。中学、高校ではバスケット部に所属し部長も務めてきた。いよいよ高校三年になり将来の進路を考え、当然の事のように大学進学を考えた。しかし、私は大学進学をして、その後どうするかを考えた時に、将来や夢に対してその明確な意志がなかった。今までは、誰かの期待に込めてただ他人の引いたレールの上を歩んでいるだけだと考え始めた。そんな中、昨今毎日のようにテレビや新聞で児童虐待や育児放棄の痛ましい事件を耳にする。命こそ助かったものの、同じような境遇の子たちが、私の施設にも数多くいる。

(中略) 私は、施設出身だからこそできる事、見ること考えられることを社会へ発信していきたい。具体的な活動や内容は今はまだないが、その為の準備、知識、学識をつかむために大学進学を果たし更にレベルアップしたい。今は誰かの期待に込めるためではなく自分の為として施設で暮らす仲間、後輩の為に自分の可能性や力を発揮したい。そして子ども達が安心して暮らせる社会を作っていきたい。

子持山学園

「詩・作文コンクール」より

編集・発行

社会福祉法人子持山福祉会

〒377-0203 群馬県渋川市吹屋 201-1

児童養護施設 子持山学園

TEL 0279-23-1152 FAX 23-1153

ホームページ

http://www.komochiyama1952.com/

Mail komochiyama1952@mist.ocn.ne.jp

施設長就任

挨拶

児童養護施設

子持山学園

施設長 望月栄一

昔、ある人から、洪川教会で大きな葬儀があったこと、そのときの子どもたちのお別れの言葉に教会の方々が涙したことなどを聞いたことがあります。

翌年（昭和五七）長尾小學校に転任した私は、その方が子持山学園の創立者中沢英三先生であり、子どもたちというのは学園の子どもたちのことだったことを知りました。

以来、学園の子どもたちが通う長尾小に八年、子持中には九年とさらに定年退職後の臨時の二年を併せて十一年、二校で計十九年間在職していましたので、その間学園の子どもたちを学学校という場で見てきました。園長・施設長に……と言わ

れたときには、とても「長」のつく立場になれるような器ではないと大変迷いましたが、幾人かの方々に相談するうちに、長くこの地区でお世話になってきたので、今度は少しは役に立つこともしなければと思うようになり、お引き受けすることにしました。

微力ではありますが、子どもたちが安心して生活でき、成長して自立できるように援助していきたいと思います。

そこで、創立者中沢英三先生により設定され、本学園が掲げる理念、

「いと小さき者への愛を」として確認しておきたいと思えます。

これは、新約聖書・マタイによる福音書二五章四十一節の

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」

によるものですが、これだけでは分かりにくいと思

ますので、この言葉をテーマに書かれた物語を紹介いたします。ご存知の方も多いと思いますが、それは文豪トルストイが書いた「靴屋のマルチン」という小さな物語です。以下、あらすじです。

ある日、一人暮らしのマルチンは神様の声を聞きま

す。「明日、あなたのところに行くから待っておいで。」

翌日は大変寒い日でしたが、マルチンは神さまをもてなす準備をして一日中待っていました。でも、神さまはとうとうマルチンの家

にやって来ませんでした。ただ、通りの雪かきをす

るおじいさんにお茶を飲ませたり、赤ちゃんを抱いて

寒そうにしている女性に食事あげたり、お腹がへつてリングを泥棒した少年を諭して盗んだリングの代金を払ってあげたり、そんな出来事があっただけでした。

ところが、その夜マルチンは、

「今日はわたしをもてなしてくれてありがとう。」と神様から言われ、昼間助けた人たちこそ神様ご自身だったと気づくのです。

マルチンは、神様を待つて窓から外を見ているうちに困っている人たちを思わず助けます。その人たちは本当に助けを必要としている人たちでした。

そして、文字通りその最も小さい者たちにあたる子どもたちが目の前にいます。繰り返しになりますが、この子どもたちが成長し社会的に自立していけるよう援助していきたいと思っています。



百の失敗から学ぶ
よりも一つの成功
体験が子どもを
成長させる

児童養護施設
子持山学園
前施設長 豊田 誠

満開だった桜もいつの間にか葉桜になりました。子持山学園のみなさん、お元気ですか。

私は現在、住んでいる地域で自治会の副会長・広報担当として、わからないことばかりですが何とか頑張っています。家では、部屋を片付け、本などを整理しました。懐かしい写真や手紙などつい読んでしまい時間ばかりかかりますが、でも、思い切って処分しました。やわらかな心で「ありがとう」の気持ちで毎日生きられたらいいなと願っています。

私は子持山学園の園長と

して六年間お世話になりました。「一生懸命頑張ってきた褒美で、子持山学園の園長をさせてもらえんだよ」という激励をもらい赴任しました。子持山学園でかつて学校で教えた子に出会えたことはうれしかったです。しかも、しっかりと成長した姿に接し、学園の先生方の素晴らしさを実感しました。ここは私にとって、神様が与えてくれた場所だと思えました。ある研修会の講演で「児童養護施設の子も達は、虐待を受けて入所する子が増えている。自尊心が低く、自分に自信が持てない。自分の存在さえ否定する子もいる。そんな子ども達を励まし、夢や希望を持つて頑張れる子、成長できる子を育てるのに何が必要なんだろうか」と話された。毎日の生活を通して丁寧に生きる術を教えること。様々な体験や人々との交流を通して支援すること。子どもが成長した

と感じられた時を大切にすること。

私は、「その子の持つている良さを見つけ、ほめて自信をつけさせることが必要だ」と考えます。今年の箱根駅伝で青山学院大学が優勝しました。「強くなるためには、規則正しい生活をするのが大切。生活力・チーム力・競技力を強化する等々。でも、私が一番感動したのは、「百の失敗から学ぶよりも、ひとつの成功体験が子どもを成長させる。」という言葉です。過去はつらいことがたくさんあったかも知れない。しかし、過去はどうあれ、今、この瞬間から自分の努力や頑張りや夢や希望もかなえることができるというアドラー哲学の考えにも勇気をもらいました。学園は離れたましたが、いつでも学園のことは応援しています。子ども達の成長を信じています。長い間、公私ともに関わって下さったみな様に感謝申し上げます。



かがやく星たち...

強さがある面、成長過程である子ども達には様々な悩みやつらさがあると感じます。自分なりに考え子ども達に関わりますが中々うまくいかず自分自身が情けなく思う事も日常茶飯事です。どうにか支えてやりたい、どうにか楽しい人生を送ってほしいと思います。正解がない事が悩みになる時もあります。そんな時でも子ども達は「大丈夫？つかれてる？」と優しく声をかけてくれます。

それぞれ大変な経験をする中でも兄弟で助け合い、同じ部屋の子も同士で助け合う姿を見る中で勉強させられます。

のぞみホームの担当として仕事が出来た事を誇りに思い、子ども達の今を大切に子どもたちの成長の助手

けが出来るようになればと思います。

元氣すぎるほど元氣で手を焼くときもあります。が今のままの優しいのぞみホームであることを願っています。

シオンホーム担当

宮崎 彩夏

一昨年の四月から学園で働き始め、二年が経ちました。シオンホームは、幼稚園児〜高校三年生までの個性あふれる女の子五人で生活をしています。

中学三年生のAは、女子バスケットボール部に所属しています。中学一年生の頃から一緒に生活を始め、心身共に成長している姿をたくさん見てきました。入学当初は、体も小さく体力

があまりなかったため部活の練習についていくことが精一杯で、見ている私自身も心配で仕方ありませんでした。ですが、部活でたくさん動き、ご飯をたくさん

食べ、夜はたくさん寝る。私よりも身長が低かったAは、いつの間にか同じくらいの身長まで伸び、大きく成長しました。同時に心の距離も縮まり、学校のこと、部活のこと、自分のことなどをたくさん話してくれるようになり、とても嬉しく思います。そんなAも、あと四カ月で部活を引退するため、悔いの残らないよう精一杯頑張ってもらいたいです。

部活を引退したあとは受験生です。勉強は苦手ですが、人より何倍も頑張っている姿を身近で見ているからこそ目標としている高校に受かるようサポートをしていきたいと思っています。

子ども達の頑張っている姿に私も負けないよう、今後にも前に進んでいきたいと思っています。



給食担当

柴崎 貴子

先日、卒園生が来園しました。「学園の子ども達は、三食きちんとした食事が食べられ、たくさん先生の達

自分の食器を使い、朝御飯の残り物、時には、職員の手作りの料理もテーブルに並びます。ホームごとに違った食事風景が見られます。少しずつですが食事面での家庭的な養育に近づいてい

先日は、言えないかもしれないけど世の中には、もっと大変な生活をしいられている子ども達もいるね」と返しました。人にとって食べる事は生きる事です。生きる力をつけて自立して欲しいと常々願っている私です。

これからは、ホームごとに、献立を考え、買い物に行き、台所で食事を作る姿、音、香りを感じて子ども達が成長できたらと思います。

本園の方針でもある「より家庭的な養育を目指す」の食の部を担う私達は、二年半前から、朝食をホームで摂る事に加え、夕食を、食堂からホームでの食事に移行しました。調理済みの食事を運ぶわけですが担当職員の負担が増える事にも不安がありました。調理員がホームをまわり盛り付けや洗い物、献立、作り方の説明等を子ども達に話します。

子持山学園の卒園生の家族の味は、学園の味という事になります。将来、自分の家庭を持った時の礎になるのです。ホームの味が作れるよう、担当職員、給食職員、協力して頑張りたいと思います。



活動報告

平成26年11月～平成27年4月

- ・JR東労組文化祭
- ・七五三児童祝福式
- ・渋川教会収穫感謝合同礼拝
- ・渋川市チャイルドゆめフェスティバル
- ・食堂装束ボラ(日本装束工業会群馬支部)
- ・資生堂スターズ自立支援セミナー
- ・育成会クリスマス会
- ・七五三撮影(高崎和田ライオンズクラブ)
- ・渋川教会コスベルコンサート
- ・渋川教会クリスマス礼拝・祝会
- ・善行会様餅つきご奉仕
- ・子持山学園クリスマス礼拝・祝会
- ・子持山学園詩・作文コンクール
- ・道祖神祭り(どんど焼き)
- ・子持山学園内音楽会
- ・育成会上毛カルタ大会
- ・卒園生お祝いの会
- ・(伊勢崎ロータリークラブ様)
- ・あかぎグローアップキャンプ
- ・(国立赤城青少年交流の家様)
- ・県内ALT来園、交流会
- ・ピノキオ人形劇観劇
- ・エールを贈るコンサート
- ・(オレンジリボン(Mother of Pearl)様)
- ・卒園生壮行会(激励会)
- ・エプロンシアターMikigami
- ・各校卒業式
- ・各校入学式
- ・パーベキュー
- ・(渋川中央ライオンズクラブ様)
- ・イースター早天礼拝、たまご探し
- ・大相撲高崎場所招待
- ・(Wrestle1様)

その他、多数の招待、寄贈、ご奉仕などに感謝。

平成二十七年四月入所児童状況

- ・幼児 五名
- ・小学生 一九名
- ・中学生 一名
- ・高校生 二三名

計四八名

学園を支えてくれる『ひと』

子持山学園で書道のボランティアを始め、十年がたちました。学園の皆さんと書道を通していろいろ勉強させていただき心から感謝しております。

毎年、五月五日子どもの日は、練習の成果を作品として展示させていただいています。子ども達も一年一年上達していくのがわかり、子どもの進歩はすごいなと実感しています。

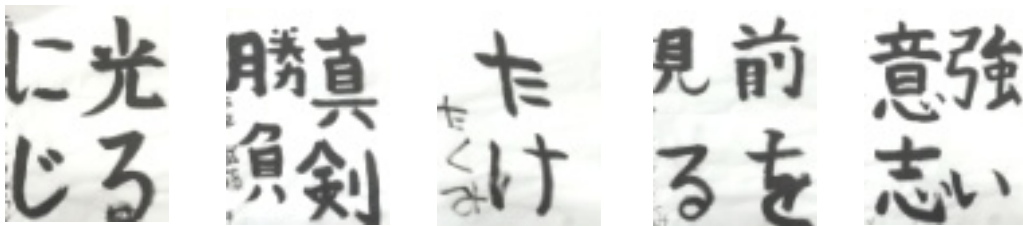
また、書き初めて賞をいただいたり、高校生になって書道を選択しがんばっている姿を見ると改めてうれしく思います。

文字はコンピュータで簡単に毛筆の書体が打ち出せる時代ですが、自ら筆を持ち墨の香りの中で表現できる世界もあるのだなと頭の片すみにおいていただければ幸いです。

一ヶ月に三回、子ども達の笑顔に会えて元気をいただけるのが待ち遠しく楽しみにしています。これからもよろしくお願いたします。

書道ボランティア

山口道子



書道のボランティアとして学園に通うようになって、早いもので十年が過ぎました。

退職を控え、時間に余裕が出るので何か自分自身も楽しめるボランティアはないか、趣味で続けていた書道を役立てる事は出来ないかと考え、学園を訪問しました。書道の實力は抜群の山口さんの賛同が得られたことも大きな支えでした。

それまで子ども達と接する経験がほとんどなかったため、初めの頃は不安でしたが、職員の皆様のお力添えで続けてこられた事を感謝しております。近頃は肩の力も抜け、子ども達との会話ははずみます。

最初に教えていた子ども達はもう卒園しました。

そして見違えるほど成長し、進学や就職で頑張っている姿をみると私も刺激を受け、もう少し続けてみようと考えているところです。

皆様のご協力をお願い致します。

書道ボランティア

大塚廣末

新任職員

あいさつ

松尾鈴香(保育士)

社会人一年目という事でわからない事も多々あると思いますが、子ども達としっかり向き合い、信頼関係を築いていきたいと思ひます。子ども達の成長に携わる事がとても楽しみです。先輩方のように立派な職員となれるよう努力していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

樋口聖(児童指導員)

出身校は東京福祉大学で、趣味・特技は、サッカー・フットサルなど体を動かすことが好きです。

一年間、子どもたちが安心して過ごせるよう、子持山学園について学び、一日でも早く子どもたちと打ちとけられるように頑張りたいたと思ひます。

ご指導よろしくお願ひします

関根里美(保育士)

趣味は音楽を聴いたり、旅行へ行ったりすることです。吹奏楽の経験もあるので楽器を奏でる事も好きです。

大学の実習等でも児童養護施設に行く機会はありませんでしたが、早く職場に馴染み、日々少しずつでも子どもと距離を縮めたいです。これからよろしくお願ひします。

江口桃鹿(保育士)

私は五歳の時から将来の夢は「保育士」でした。その夢を追い続け、子どもの成長を近くで見届けられることのできる児童養護施設で働きたいと望むようになりました。自分のできることは精一杯頑張り、子どもたちと向き合っていけるよう全力を尽くします。

片桐久美華(栄養士)

まだまだ分からない事だらけですが、様々な事を学びながら頑張っていきます。子供達に美味しく楽しい食事をしてもらえるような献立を考えていきたいと思ひます。

平成26年度 退職職員より 大変お世話になりました!

私は子持山学園にて四年間、保育士として子ども達と共に過ごさせて頂きました。四年間という短い間でしたが、学園の子ども達や、一緒に働く職員の方達から得たり頂いたりすることが多すぎて、また、大きすぎて、逆に私は何か残すことが出来たのだろうかと思ひます。

退職を決めた今、感じることは、子ども達と泣いたり、笑ったり、好きであるはずの子と上手くいかない時は「嫌」になっ

てしまったり、だけどやっぱり子ども達のことが「好き」であったり、気に掛けてくれる職員の方達の言葉が素直に嬉しかったりと、自分

子持山学園での日々は、私にとつて、とても貴重な日々でした。

子どもたちにとつてどのような事が大切なのか自分の支援の方法で良いのかが、いつも分からず研修に参加したり本を読んだりしましたが答えが出ずに悩むことが多かったのですが悩んでいる時には相談にのってくれる先生方、普段通り接しているはずの子どもたちも優しい言葉をかけてくれたり、いつもは動かない子どもたちが「今日は、しよっか」と言ってくれました。

何も子どもたちに出来なかったのですがもう少し子どもたちと一緒にいて子どもの成長をみられたらと思ひていたのですが退職をすることにしました。

子どもたちと先生方と出会えたこと、そして教えたのだいたの数々のことは私の大切な財産となりました。本当にありがとうございました。

家族の協力があつたから

私は、入職して間もなく子ども達から『普通の家って夕飯食べたら何をしているの?』という質問を受けました。言葉がみつからないまま、子ども達自身が、見て感じて答えをみつけたらいい。と思ひ、担当者や心理職と相談しながら私の家に連れて帰り、我が家の日常を味わってもらおうにしました。子ども達は、どんな風を感じたか聞いてみた事は、ありませんでしたが、突然、子ども達を連れて帰っても、笑顔で迎えてくれた家族とあたり前の様に振る舞う子ども達の姿がありました。また義父母は、学園には無い存在で、年々老いていく二人に子ども達なりに感じるものがあるらしく、噛み合わない会話にならずに笑っていました。こんな風に栄養士でありながら、子ども達と関わった事は、園の御理解と家族の協力があつたから出来た事と感謝すると共に退職後も『おばちゃん』として、子持山学園の応援団の一員であり続けたいと思ひます。

保育士 阿部野々香

児童指導員 大場綾乃

管理栄養士 飯塚由美

